

Cover History

— 表紙写真由来 —

日向用水の水路橋

— 宮崎県高千穂町 —

宮崎大学農学部 竹下伸一

1. はじめに

表紙写真、写真-1は、2023（令和5）年1月21日に放送されたプラタモリ（NHK 総合）の中で、筆者がタモリさんたちを案内して、紹介した水路橋である。高千穂編として放送された番組では、まず宮崎県を代表する観光地である高千穂峡を題材に、高千穂町の地形的な特徴を地質の面から解説した。つぎに、その地形・地質のために苦労した人々の暮らしの足跡を追った。そして最後に、「高千穂」の名にふさわしい今の美しい景観を生み出すのに重要な役割を担った山腹用水路が紹介された。筆者は、幸運にも番組の構成に協力させていただいたばかりか、案内人の一人として山腹用水路をとものにたどり、その特徴と用水路によってもたらされた景観の秘密を解説した。

番組収録に先だって、タモリさんや視聴者に一目で山腹用水路の特徴が伝わる場所・風景はないかと高千穂町内を奔走する中で携帯していたスマートフォンで撮影したのが、表紙写真である。



写真-1 水路橋

2. 水路をつなぐ橋

五ヶ瀬川支流の岩戸川の上流部に上岩戸大橋という林道橋（写真-2 および図-1）がある。岩戸川から路面までの高さは122 mにもなるその橋の右岸側に、旧道が残っている。その旧道を横切る水路を追って



写真-2 上岩戸大橋と旧道

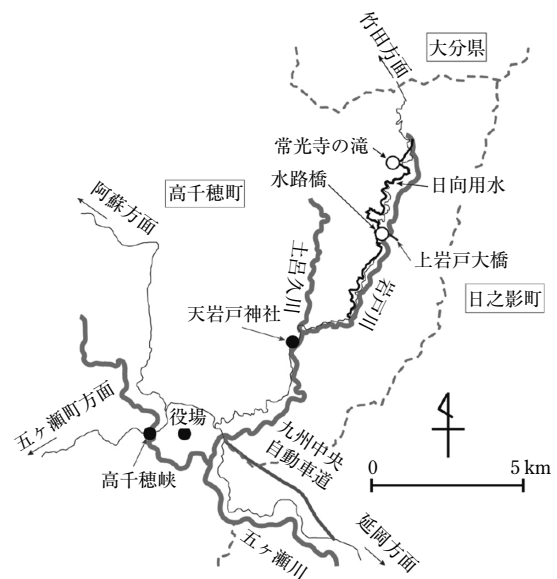


図-1 日向用水と水路橋の位置図

くと表紙写真、写真-1の橋に出会う。この橋は、高千穂町の上岩戸地区を流れる日向用水のもので、谷などを越えるためのものではなく、急峻な崖部を渡すために掛けられた、いわゆる掛樋である。正確な記録はないが、かつては急斜面上の堰敷に開削した水路だったものが、斜面もろとも崩れて寸断され、改めて水路をつなぐために掛けられたものと推測される。等高線に沿って山腹斜面上に用水路を開削していく途



写真-3 神之水用水の橋（樋）



写真-4 最初の水源である常光寺の滝

中、崖のために堰敷を確保できず、やむなく同様の橋（樋）を渡しているところが、同地域には多数見られる（写真-3）。

3. 日向用水

岩戸川沿いのこの地域の地形は、阿蘇山から流れ込んだ火砕流によって形作られた。阿蘇山は、これまでに4回大規模な噴火があったことが知られている¹⁾。とくに12万年前の3回目と9万年前の4回目の噴火によって、五ヶ瀬川沿いに大量の火砕流が流入し、谷を埋めた。その後、火砕流は冷えて溶結凝灰岩となり、それを侵食して流れた川によって、高さ100mの崖をもつ火砕流台地が形成された。溶結凝灰岩は冷えるときに柱状に割れ、柱状節理を形成する。これによって生まれたのが高千穂峡の美しい景観である。しかし、ひび割れた凝灰岩の上に降った雨のほとんどは、台地にとどまることなく浸透してしまうため、台地の上に暮らす人々は深刻な水不足に悩まされた。

この状況を打開しようと立ち上がったのが、旧岩戸村（現 高千穂町）の庄屋・土持信賛^{つちもちのぶよし}であった²⁾。土持は、天保年間に水路開削計画を立ち上げたものの失敗。ますます困窮する農民の姿を目の当たりにして、1856（安政3）年に再び水路開削に取りかかった。このときは、近隣の石工や農民たち総出で開削を進めることとなり、ついに1859（安政6）年に、9,818mの用水路を完成させることができた。これによってこの地（才田地区）に30町歩の水田が誕生し、この用水路は才田用水と呼ばれた。しかし、せっかく通水できたものの、最初に水源とした滝（写真-4）だけでは水量が不足した。そのため1861（文久元）年、さらに1,454m上流まで延伸し、より水量の安定した溪

流からの取水に成功した。その後、何度も改修を重ねながらも大切に運用され続けており、現在、その水路は日向用水と呼ばれている。

4. おわりに

同様の火砕流台地が広がる高千穂町周辺地域（高千穂郷と呼ばれる）は、幕末まで稲作を営むことが難しい地域だった。この日向用水を始めとするいくつかの用水開発の成功がきっかけとなり、急速に用水開発が進み、1940（昭和15）年までに約2,000町歩にまで水田が広がった。これにより「高千穂」の名にふさわしい稲穂が輝く地域となった。水田のほとんどは棚田で、そのうちの7地区が「つなぐ棚田遺産」に選定されている³⁾。さらに、椎葉山地域も加えた同地域は、2015（平成27）年にFAOにより世界農業遺産にも認定された。認定に際して、この地域の山腹用水路と棚田は、遺産を構成する重要な要素とされている。

宮崎県北西部、九州山地を形成する斜面の至る所に、このような山腹用水路が総延長約500kmも存在する。先人が心血を注いでつないだ大事な水。その流れを途切れさせてはならないと受け継がれた思いが投影された大切な水利施設の一つである。

引用文献

- 1) 竹下伸一、北村優衣：宮崎県世界農業遺産地域における農業用水路敷設地の地形的特徴、水土の知87(3)、pp.31～34（2019）
- 2) 藤寺非寶：岩戸山裏維新以前田成開発史 上向き田米、岩戸地区公民館連絡協議会（2000）
- 3) 中島峰広：つなぐ棚田遺産、棚田学会誌23、pp.94～97（2022）